

# 国語

一

出典

井出祥子「国際化社会における言語と文化とアイデンティティ」(『国際化と日本語』新「ことば」シリーズ 1 文化庁)

問一 ものの見方〔解釈の仕方〕

問二 A―3 B―2 C―4

問三 4

問四 (例) 日本語に小雨、秋雨、霧雨などの多様な雨を表す語彙があるのは、雨が多く、四季があり、季語としても発達してきたためである。(六十字以内)

問五 X、Y、Z

問六 3

問七 盲点

問八 3

問九 3

問十 ① せいとくてき〔しょうとくてき〕 ② 普遍的 ③ 把握 ⑦ 等価 ⑧ みぢか

- 問一 a 連用形 b 已然形 c 連用形 d 連用形 e 連体形 f 連体形
- 問二 (係り・結びの順に) こそ・なれ こそ・見ゆれ や(は)・べき ぞ・るる こそ・るれ
- 問三 ① すいがい ② せんざい ⑩ かななづき〔かみなづき〕
- 問四 わざとならぬ
- 問五 2
- 問六 (種類・対象の順に) ⑤―2・後徳大寺大臣〔この殿〕 ⑦―1・綾小路宮 ⑧―1・綾小路宮
- 問七 ⑥ 後徳大 ⑨ まこと〔鳥の群〕
- 問八 1
- 問九 イ